
グリーンアップル

音無 無音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

グリーンアップル

【Nコード】

N6369U

【作者名】

音無 無音

【あらすじ】

【シーブリーズシリーズ第二弾】初めて彼に触れたとき。私は買ったばかりのシーブリーズをつけていた。

初めて彼に触れたとき。

私は買ったばかりのシーブリーズをつけていた。

彼はどろんこまみれになって、

私の買いたい自動販売機の前に居るんだもん。

どかす・・・、以前に助けなきゃって思っちゃうでしょ？

私は今日まだ使っていない綺麗なハンカチを差し出した。

「大丈夫？」

彼は何だか対応に困ってた気がするの。

少し焦ってから

「あ、ああ」

って返事が来た。

大丈夫そうで安心したよ・・・。

ハンカチ差し出したのにそっぽむいちゃうし・・・。

もういい！私が泥落とす！

そう思った私は泥を落とし始める。

「さ、とれた」

ヤダ、口怪我してる！

私は咄嗟にカバンに手をつまむ。多分絆創膏持ってた！

それを彼の口元にはって、笑ってみせた。

「これでもう大丈夫だね。

何か困ったことがあったら、私に構わず言ってね」

だってなんだか、ほっとけなくなっちゃった・・・。

「道野瀬くん」

名前なんて知ってる。

・・・だって私・・・。

「私を頼ってもいいけど、もう心配させないでね」

そういつて私は逆光を利用し、赤面をバレないようにした。

悪知恵、かな。えへへ。

そして彼に手を差し出す。

彼は意外にすんなりと私の手をとってくれた。ちょっと嬉しい。

・・・この手、離したくないな。

「あのね」

私、君のこと

「？」

「・・・、なんでもない」

私の初恋は、ほんのり香る青林檎と一緒に訪れた。

(後書き)

クソッ

失敗したぜッッ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6369u/>

グリーンアップル

2011年10月3日11時17分発行